

# トゲクリガニ増殖試験

蛸名 政仁・田中 俊輔・須川 人志・佐藤 恭成・相坂 幸二

本試験は、陸奥湾内の地域特産種として重要度の高いトゲクリガニの生態を把握することにより、増殖手法を検討するための基礎的知見を得ることを目的として実施した。

## 方 法

- 1) 試験場所：当センター
- 2) 試験期間：平成2年3月13日から同年6月18日
- 3) 試験方法：トゲクリガニは、平成3年3月13日から15日にかけて当センター実験筏で集魚灯を点灯し、水深1から2m層から水中ポンプにより採集したメガローバ期幼生を用いた。メガローバの大きさは、平均全長3.8mm、平均甲長7.2mm、平均甲幅1.7mmであった。飼育水槽は200ℓ水槽3基、500ℓ水槽1基（いずれもポリカーボネイト製水槽）を用い、幼生を2000個体／基ずつ収容した。飼育は、流水式とし、飼育水槽が一日当たり5から6換水となるようにろ過海水を注水した。餌料は、200ℓ水槽にはそれぞれに配合餌料、イカナゴミンチ、配合+イカナゴミンチを与え、500ℓ水槽には、配合餌料を与えた。投餌は、1日1回、残餌が出るように与えた。

## 結 果

試験結果を表1に示した。

表1 トゲクリガニ飼育結果

水槽No.	収容数	飼 育 餌 料	試 験 終 了 時				
			生残数	生残率	平均甲長	〃 甲幅	〃 全重
1	2000	配 合 餌 料	2 個体	0.1%	19.5mm	19.5mm	3.41 g
2	2000	イカナゴミンチ	4	0.2	14.5	12.5	1.26
3	2000	配合+イカナゴミンチ	6	0.3	13.5	11.8	1.34
4	2000	配 合 餌 料	14	0.7	11.8	10.21	0.75

試験終了時の生残率は、いずれの試験区とも低く0.1から0.7%台にとどまった。

このことの原因としては、飼育初期からトゲクリガニ同士の共喰い（魚体の大小差、脱皮直後のトゲクリガニへの共喰い）による減耗が著しく、今後、飼育管理方法の見直しが必要と考えられる。